

関連項目：指導体制プラン③

## 問題行動に対してできるだけ個別のサポートをする

### 目的

本校の児童は全体的に素直でおとなしく、自分のことや質問等を全体の場で発表することを苦手としている児童が多く見られます。そこで、できるだけ個別に対応することで本当に困っていることや悩みについて表出しやすい環境を整えようと考えました。定期的に、教育相談活動を実施します。

### 内容

#### ● サポートチームの編成

- ・ 生徒指導委員会の開催、生徒指導主任を中心とし重点項目について毎月の指導内容を提案、週番活動での成果と課題を評価しながら次の月の実践計画を考えます。また、生徒指導に関する情報交換や指導体制の協議を行い共通理解を図ります。
- ・ 月に1度の生徒指導委員会であがってきた事例で、チーム支援が必要な場合、管理職、生徒指導主事、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、サポーターによるサポートチームを編成し対応に当たります。(個人で対応するのではなくチームで対応)

**\* 場合によってケース会議を行う場合もあります。**

今年行ったケース会議

学校の対応だけではその問題に対して対応できないとサポートチームで判断し、各関係機関に連絡して開催しました。

(参加者) ・ 県子ども女性センター ・ アルプスカがわ ・ 市子育て支援課 ・ 東部教育事務所 市障がい福祉課 ・ 民生児童委員 ・ 巡回相談員 ・ 牟礼南小サポートチーム 計18名

話し合った内容 《・ 状況報告及び現状確認 ・ 最近の状況と現状対応 ・ 今後の支援について》

#### ● 教育相談活動

- ・ 月に1回放課後(主として担任)及び月1回スクールカウンセラーの活用を希望に応じ個別に対応します。
- ・ ふわふわアンケートの実施。半年に1回学校全体でアンケートを実施。児童一人ひとりの心の内を探ります。(おもに担任・養護教諭・管理職での個別対応)

#### ● 卒業を控えた6年生に対する個別相談

- ・ 新しい取り組みとして、親子『教育相談フォーラム』の実施。



- ・ グループ教育相談

\* グループごとにカウンセラーの先生と、不安に思っていることや困っていることを話し合う会を持ちます。

\* グループごとに校長先生と給食を食べながら夢や希望を話す機会を持ちます。

個別教育相談

\* 2ヶ月に1回学年団で『自分自身を見つめてみよう』アンケートの実施をし、こころの整理をするとともに場合によっては担任や養護教諭と話し合う機会を持ちます。

### 成果

- ・ サポートチームを編成し、話し合うことで学校のみでは関わりきれないケースにも素早く対応することができました。
- ・ 卒業を控え不安な気持ちを和らげ、こころに余裕ができて落ち着いて学習に取り組めるようになってきました。